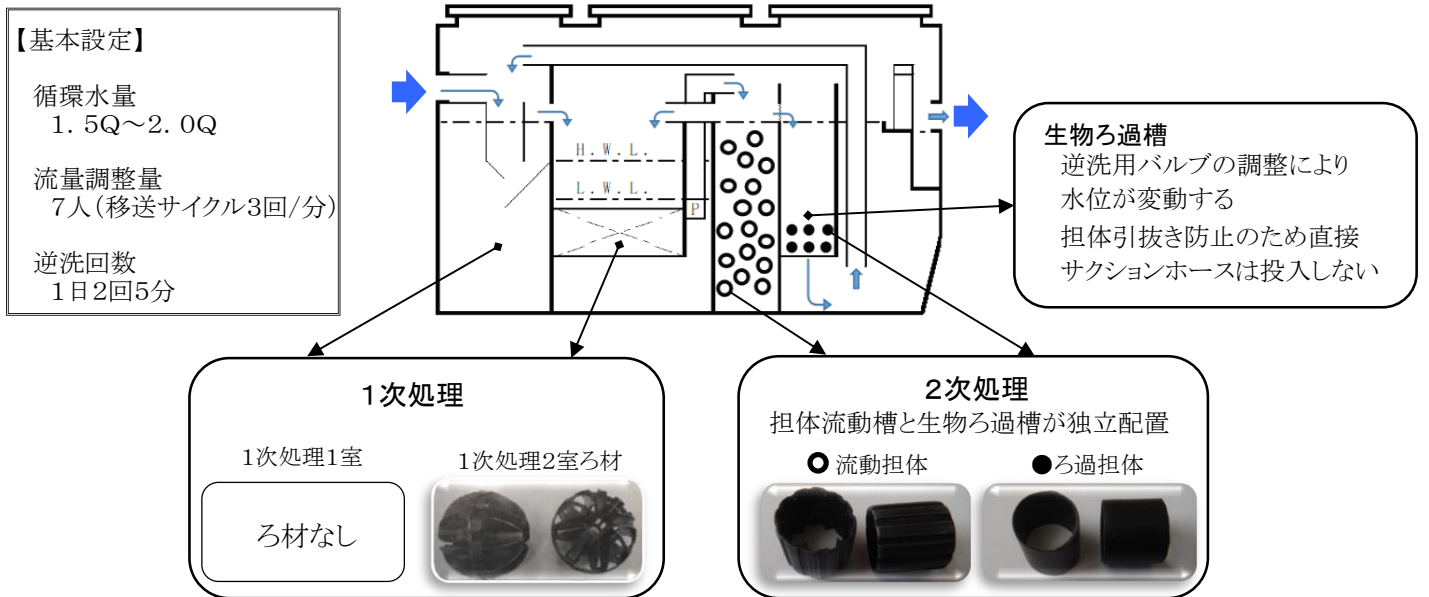


事例74 FCS II型 7人槽 使用人員の増加(5人使用 大人4人 小学生1人) 平成31年4月から息子夫婦と同居

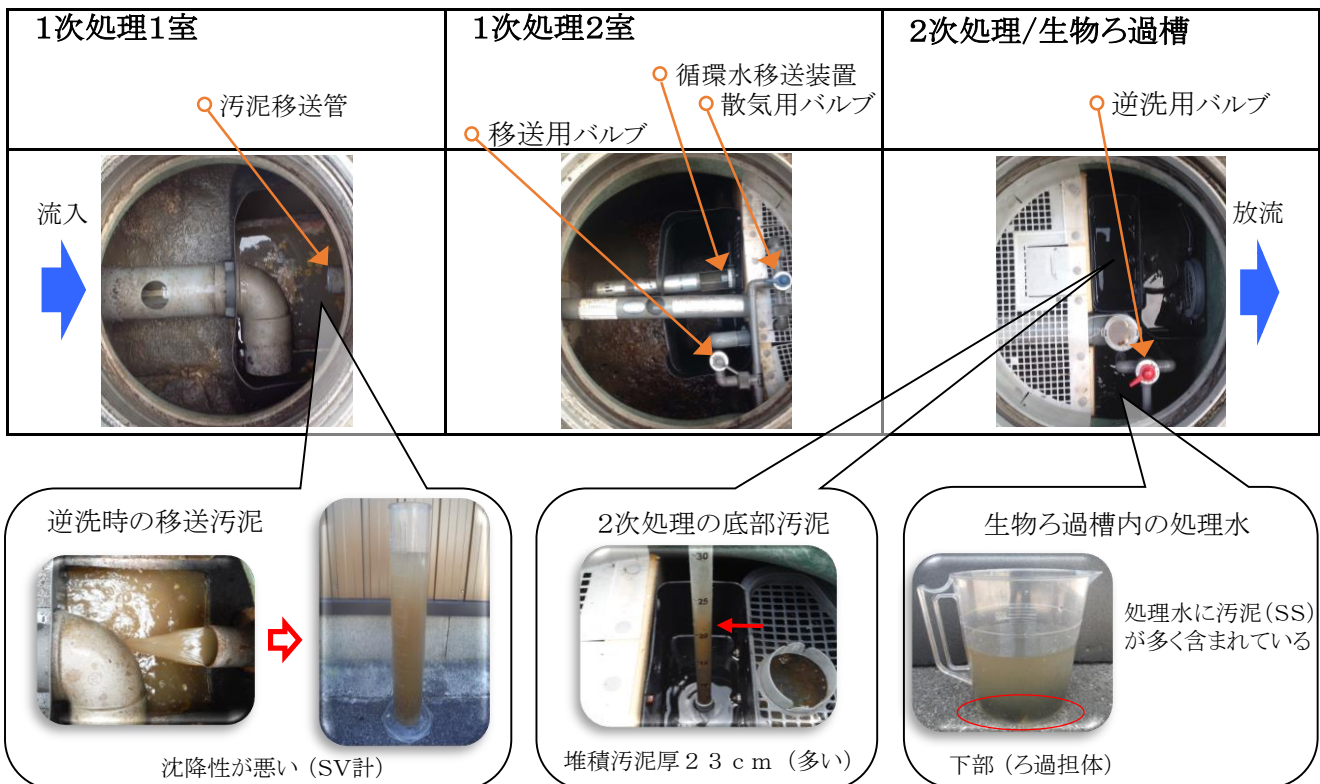
— は同居後に変化をとらえた数値

経時的データ		放流水透視度(度)	使用人員(人)	日平均汚水量(m <sup>3</sup> /日)	2次処理堆積汚泥厚(cm)	逆洗回数(回)	清掃時の引抜き状況
法定	平成30年07月10日	45	2	0.59	6	2	-
清掃	平成30年11月20日	42	2	0.58	8	2	逆洗移送汚泥の引抜き
保守	平成31年01月11日	34	2	0.62	4	2	-
保守	令和01年05月20日	32	<u>5</u>	<u>1.14</u>	<u>15</u>	2	-
法定	令和01年07月29日	<u>22</u>	5	1.27	23	2	-
保守	令和01年09月19日	28	5	1.29	15	1	-
清掃	令和01年11月18日	43	5	1.25	11	1	移送汚泥+担体洗浄水
保守	令和02年01月08日	50	5	1.28	5	1	-

1. 浄化槽の概要図

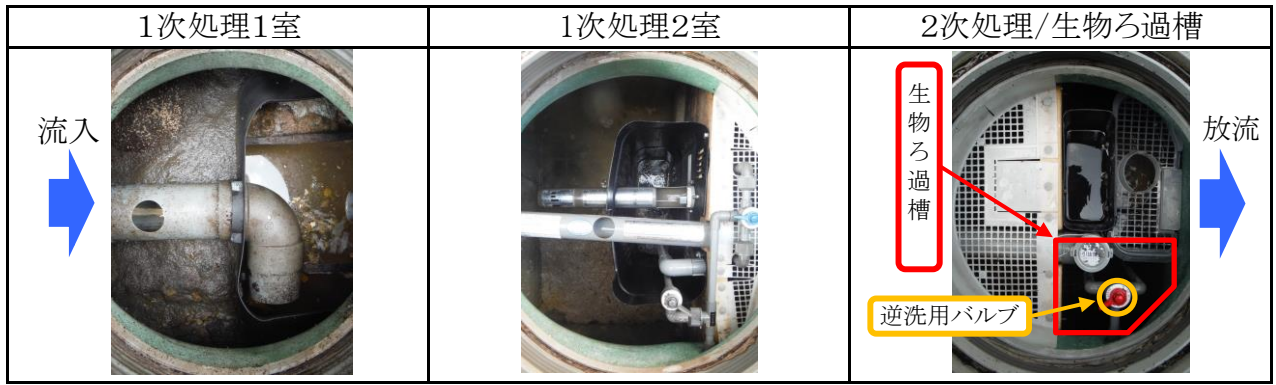


2. 法定検査時の槽内状況(令和1年7月29日)





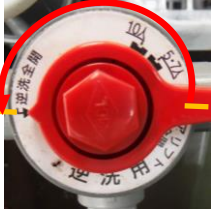






保守点検作業 FCS II 型 7人槽 使用人員の増加(5人使用 大人4人 小学生1人)


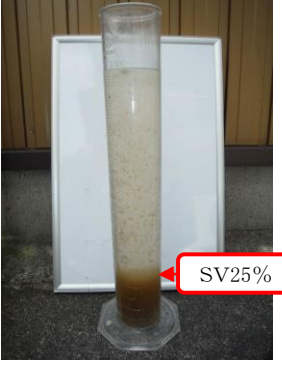


1. 保守点検時の槽内状況(令和1年9月19日)



2. 逆洗用バルブ操作による汚泥移送の手順




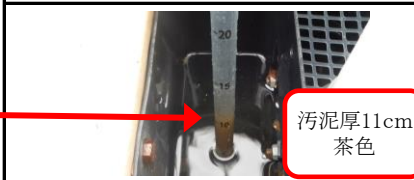

	バルブ設定	手順	生物ろ過槽の状況	
通常逆洗	① 	ブロワの設定通りに5分間 手動逆洗を実施する (設定5・7人)		汚泥が移送され、5分後 水位が正常水位より 約30cm下がる
バルブ操作による逆洗	② 	逆洗用バルブをエアリフト 全開(右)にして、生物ろ過 槽の水位を下げる		水位が正常水位より 約50cm下がる  【右へ回す】 逆洗時の攪拌水流は弱く 汚泥移送量は多くなる
	③ 	エアリフト全開から逆洗全 開(左)に切替え、更に逆洗 を5分間実施する		水位を下げることにより 汚泥の剥離効果が高い  【左へ回す】 逆洗時の攪拌水流は強く 汚泥移送量は少なくなる
	④ 	通常運転に戻し生物ろ過槽 の水位を上げる 再度通常逆洗を行い剥離した 汚泥を移送する		採泥状況 

3. 移送した汚泥の状況(令和1年9月19日)

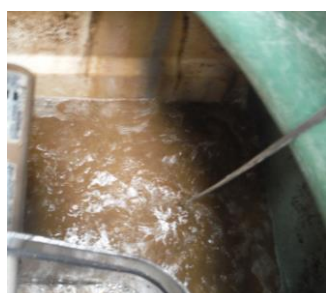



通常逆洗(1回目)		バルブ操作による逆洗(2回目)	
			
採泥直後	20分静置後 SV25%	1回目より汚泥が多い	20分静置後 SV57%

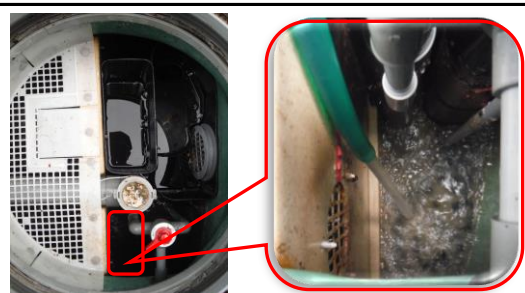


# 清掃作業 FCS II 型 7人槽 使用人員の増加(5人使用 大人4人 小学生1人)

## 1. 清掃時の状況(令和1年11月18日)




1次処理1室	1次処理2室	2次処理/生物ろ過槽	2次処理汚泥
			
			汚泥厚11cm 茶色
			放流水
			
			透視度43度

## 2. 清掃作業(令和1年11月18日)

1次処理	1次処理2室強制攪拌	間欠定量移送装置洗浄	1次処理1室	1次処理2室
				
	1次処理1室、2室は全量引抜き			

2次処理	ろ過担体の洗浄	ろ過担体洗浄後の移送水	清掃作業後のろ過担体
			
	逆洗で1次処理1室へ移送を行いながら水道水で担体の洗浄を行う	移送水は1次処理の張り水に使用する	洗浄によりろ過担体の機能が回復する

## ○清掃2か月後、保守点検時の状況(令和2年1月8日)

ろ過担体の確認	2次処理汚泥	放流水
		
清掃時の洗浄作業により汚泥は少ない	堆積汚泥厚5cm(少ない)	透視度 50度以上